



Neumann、5つの新しいサブウーファーで KH シリーズのラインナップを拡張

ステレオ、サラウンド、イマーシブ・モニタリング・システムのための正確な低音再生

2025 年 11 月 6 日
ゼンハイザー・ジャパン株式会社

(本資料は、2025 年 9 月 11 日に Georg Neumann GmbH より発表されたプレスリリースの抄訳です)

ベルリン、2025 年 9 月 11 日 – Sennheiser グループ傘下の Georg Neumann GmbH は、高い評価を得ている KH シリーズより、新たな DSP 搭載のサブウーファー「KH 805 II」「KH 810 II」「KH 870 II」、Audio-over-IP (AoIP) 対応モデルである「KH 810 II AES67」「KH 870 II AES67」5 機種の発売を発表しました。このたび発売するサブウーファーは、高い SPL 性能を備え、ステレオ、サラウンド、そしてイマーシブオーディオのワークフローにおいて、比類なき精度、パワー、柔軟性を提供します。日本における発売日、価格は未定です。



(左から) DSP サブウーファー KH 805 II、KH 870 II、KH 810 II

ノイマンの CEO である Yasmine Riechers は次のように述べています。

「音楽、ポストプロダクション、放送においてイマーシブオーディオが新しい標準となりつつある中で、信頼性の高いモニタリングはこれまで以上に重要になっています。私たちの新しい KH サブウーファーは、ステレオからサラウンド、イマーシブに至るまで、あらゆるスタジオの規模やフォーマットに対応する拡張可能なソリューションを提供し、アナログおよび DSP 搭載の KH モニター両方とシームレスに統合します」

■より強力なパワーとマルチチャンネルのベースマネジメント**<「KH 805 II」製品概要>**

「KH 805 II」は、高い支持を集めている「KH 750 DSP」をベースに、出力をおよそ2倍に高めることで、より大きなヘッドルームと低域の存在感を実現しました。Neumannの「KH 120 II」「KH 150」または「KH 310」モニターを使用するステレオ構成において理想的な選択肢となります。

**<「KH 810 II」製品概要>**

「KH 810 II」は、最大 7.1.4 チャンネルのシステムまで対応するマルチチャンネルのベースマネジメントを追加した、イマーシブオーディオ制作に最適なモデルです。本製品は、「KH 805 II」と同じ音響設計を共有しており、最大 11 台のスタジオモニターに対するベースマネジメントをサポートします。

**<「KH 870 II」製品概要>**

本シリーズ最上位モデルとなる「KH 870 II」は、「KH 810 II」の出力を2倍に高めながら、同一のマルチチャンネル機能を提供します。大規模なルームや高負荷な用途向けに設計されており、「KH 420」のような大型モニターとの組み合わせにも容易に対応できます。

**■AoIP ワークフローのための 2 つの AES67 バージョン**

「KH 810 II AES67」および「KH 870 II AES67」は、現代の放送やネットワークオーディオ環境にシームレスに統合されます。12 チャンネルの AES67 入力をサポートし、ST 2110、ST 2022-7 リダンダンシー、RAVENNA®、NMOS、DANTE®生成ストリームに完全準拠することで、将来にわたって有効な柔軟性とシステム全体での統合性を提供します。

■DSP パワーと MA 1 統合

新たな KH サブウーファーはすべて、Neumann の高度な DSP エンジンを搭載しており、MA 1 オートマチック・モニター・アライメント（別売）を介したシームレスなシステム調整を可能にします。これにより、アナログ KH スピーカーを含むモニタリング環境全体を、ルームアコースティックや位相整合に最適化できます。

これらのサブウーファーは 16 Hz まで拡張された低域再生により、ミキシングやマスタリングにおける重要な判断に必要とされる明瞭さ、コントロールを実現します。

■完成されたサブウーファーファミリー

新モデルの追加をもって、Neumann はコンパクトな「KH 750 DSP」からパワフルな「KH 870 II」に至るまで、DSP 制御されたサブウーファー全ラインナップの提供が開始となりました。これにより、音楽制作、編集、ポストプロダクション、スコアリング、ミキシング、マスタリングに至るまで、ステレオからイマーシブオーディオに対応するあらゆるモニタリングニーズをカバーします。すべてのモデルが 16 Hz の可聴域にまで到達し、Neumann のスタジオモニターと組み合わせることで、全周波数帯域にわたるリファレンスサウンドを実現します。

プロダクト部門責任者の Stephan Mauer は次のように述べています。

「新しい KH サブウーファーは、従来モデルに比べて大幅に進化しており、歪みやポートノイズが劇的に低減されています。注目すべき点は、アナログおよび DSP 制御の KH ライン・スタジオモニターの両方と組み合わせ可能であることです。これにより、既存のステレオシステムのアップグレードや、イマーシブモニタリングへの拡張に最適なツールとなります。また、システム全体を MA 1 を通じて精密にルームアライメントできるオプションも備えています。言い換えれば、低域の推測に頼る必要はもうありません」

Neumann について

「Neumann.Berlin」の名で知られる Georg Neumann GmbH は、スタジオグレードのオーディオ機器に特化した世界的なトップメーカーであり、U 47、M 49、U 67、U 87 をはじめとするレコーディング用マイクロフォンの伝説的名機の生みの親としても知られています。1928 年の創業以来、Neumann.Berlin は数々の技術的イノベーションを起こし、いくつもの国際的な賞を授与されてきました。専門は電気音響変換機の開発ですが、2010 年よりテレビやラジオ放送、レコーディング、オーディオ制作といった市場向けのスタジオモニター製品開発も手掛けています。Neumann 初のスタジオヘッドフォンは 2019 年初頭にリリースされ、2022 年以降はライブオーディオ用の、リファレンスクラスのソリューションに力を入れています。Georg Neumann GmbH は 1991 年より Sennheiser グループの傘下に入り、製品は現在、Sennheiser が世界中で展開する拠点ネットワークのほか、長期的な関係を構築してきた販売代理店を通じて各国で販売されています。

<https://www.neumann.com/ja-jp>

<本リリースに関する報道関係者のお問い合わせ先>

ゼンハイザー・ジャパン PR 事務局（ブレインズ・カンパニー内）

中村・西田・田村・中島

TEL：03-4580-9156 / MAIL：sennheiser@pjbc.co.jp